

RACE1

『連続 PP 獲得から 4 位獲得、TGR チームが 1 位から 5 位を独占』

RACE2

『4 番手スタートから勝負に出るが不運なトラブルで・・・苦戦』



シリーズ名： 2025 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名： 2025 AUTOBACS SUPER GT Rd.4 「FUJI GT SPRINT RACE」

レース距離： 8 月 2 日（土） 1 周 4.563km×35 周

8 月 3 日（日） 1 周 4.563km×34 周（50 分）

RACE1

8 月 2 日（土） 天候：晴 コース状況：ドライ

公式予選：GT500 クラス 1 位：1:28.167（阪口選手）

台風の接近に伴い、開催が危ぶまれた第 4 戦だが、台風の進路が逸れたため、無事に開催となった。台風一過で晴

天に恵まれた富士スピードウェイ、高所にあるとはいえ、気温そして路面温度はうなぎ登りに上がっていき、レースへの影響が大きそうだ。

今回は SUPER GT 初の試みとして、ドライバー交替、タイヤ交換、燃料補給がなく、二人のドライバーが RACE1 と RACE2 に分かれ、それぞれ、練習走行、予選、決勝と一人で走り抜ける。

サクセスウェイトは下ろして、全車イコールコンディションでの争いとなり、予選は 1 回のみ、決勝は、RACE1 は GT500/300 の混走で決勝は 35 週のレース、RACE2 はそれぞれのクラス別で 50 分間のスプリントレースとなる。

RACE1 のドライバーは阪口選手となる。

練習走行では、500/300 混走時間帯の 6 周目に出した 1:28.280 をトップタイムとして、混走時間/占有時間合計で合計 18 周、コンスタントに 1 分 28 秒台で走行し 5 位、予選そして決勝に向けての走行となった。

予選は 10 分間のタイムアタック方式。300 クラス予選開始時の気温/路面温度が 33℃/54℃となり、1 周 1 分半前後で周回できる富士スピードウェイにて高い路面温度/気温に伴い、予選開始直後にはどの車両も出てこず、静かなスタートとなった。

残り 8 分で 4 台が出ると、少しずつコースインすると、19 号車も 7 分半にピットを後にする。

いつものごとく、ゆっくりとタイヤに熱を入れながら周回を重ねていき、3 周、残り 2 分を切ったあたりでアタックに入ると、第 2,3 セクターでパープルを出す 1:28.327 を出して暫定 1 位となる。

そのまま再びアタックに入ると、一時 1 号車にポールの座を奪取されるも、第 1,3 セクターで自己ベストを出し、1:28.167 と 1 位の座をもぎ取り、ポールポジションを獲得することとなりました。

予選結果は 19-1-38-3-39-24-100-12-23-14-37-17-8-16-64 となります。

予選コメント

【坂東監督】



『素晴らしいタイヤ、素晴らしい車を作ってくれたメカ、中山エンジニア、ドライバーの技量皆様の応援で連続ポールを獲る事が出来ました。
令和の最速男、阪口晴南選手に決勝も期待します。』

【阪口選手】



『いや、最高でした。ノーウェイトでガチンコ予選だったんで。最高に気持ちいいです。もちろんスプリントで一番有利な位置からスタートできるので、しっかりポールポジションを守って、チームとヨコハマタイヤさんと一勝目指して頑張りたいと思います。』

RACE1

決勝 4 位

決勝直前の天候は晴れているものの、雲の量が多い。台風が変わった低気圧が引き続き日本列島に近づいているため、夕方から天候崩れる予報が出ている中、果たして持つのか。

予選で使われたタイヤを決勝でも使うことがレギュレーションで規定されているが、決勝では、タイヤ交換や燃料補給が必然ではなく、35 週の決戦となる。

静岡県警によるパレードランを 1 周、フォーメーションラップを 1 周し、15 台の隊列をもって、最終コーナーを先頭で立ち上がってきた 19 号車はローリングスタートで 1 コーナーに向けてアクセルを踏み込み、スタートが切られた。

1 コーナーでは 19 号車はトップで飛び込んだが、2 位が 1 号車の背後から 38 号車が飛び込み 2 位を奪取。その後、1 号車を取り戻すが、コーナー毎に順位が目まぐるしく変わる激しいトップ争いが展開になるかと思われたが、1 周目、コカ・コーラコーナー立ち上がりで後続の 100 号車と 14 号車が接触、14 号車がコースアウト、クラッシュしたためコース上でイエローが振られ、のち、セーフティカーが入った。19 号車はトップのまま、SC 先導で周回を重ねていく。

セーフティカーのランプが消え、6 周目からレースが再開。最終コーナー手前からアクセルを踏み込んでコントロールラインを通過したが、1 号車が背後に迫り、1 コーナーでの立ち上がりでパスされて 2 位に、更に 38 号車にもアドバンコーナーで刺されてしまい、19 号車は 3 位に落ちてしまった。

8 周目で 19 号車はトップの 1 号車とは 2.6 秒差、2 位の 38 号車との差が 1.3 秒と等間隔で周回を重ねるが、後ろからは更に 39 号車も付き、スープラによる 4 台のトップ争いが激化することとなる。

15 周目、上位の順位は変わらないまま、トップとの差は 4 秒、2 位との差は 2 秒で 19 号車は 3 位。順位を落とすことは無いが、300 クラスと交差する中、17 周目にはトップから 8 秒の差がついてしまう。

レース周回半分を過ぎた 19 周目。天候は最終コーナー方向から黒い雲が立ち込めて来る。そして、ホームストレートで細かい雨を感じるようになったのが 20 周目。19 号車は 3 位のままだが、後ろ 2 秒には 39 号車、そして 37 号車が追いついてくるのが見える。

ワイパーを動かす車両が増え、メインストレートの壁にヘッドライトの明かりが認識できるくらい暗くなってきた。後ろの 39 号車と 37 号車がサイドで接触するくらい激しい 4 位争いの中、24 周目の 39 号車からのカメラには前の 19 号車がはっきりと映り、雨粒もはっきりと見えてきた。

のこり 10 周。メインストレートで 19 号車が 39 号車に背後をつかれ、1 コーナーでパスされて 4 位。さらに背後についた 37 号車にもパスされて 5 位となる。

終盤、危惧された降雨も目立つ程でもなく、また、6 位の 12 号車からの追いつきも有ったが、そのまま順位を死守して 5 位でチェッカーを受けることとなりました。

レースはスタート直後に SC が入り、レース再開後にトップに出た 1 号車そのまま逃げ切りチェッカー。終始 2~3 秒の差をつけられた 38 号車が 2 位となり 3 位以下を 20 秒近く離すこととなりました。以下の順位は 37-19-39-12-100-3-17-8-23-24-16-64-(以下リタイア)-16 となります。

※3 位でチェッカーを受けた 39 号車に 5 秒のタイムペナルティが出たため、19 号車の最終結果は繰り上げ 4 位となりました。

決勝コメント

【坂東監督】

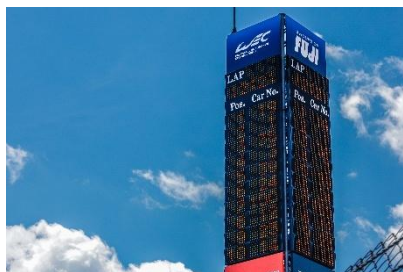


『TGR チームに貢献出来た事は嬉しいですが
現在ライバルはスーブラです。
他のスーブラとは戦っているパッケージは違うので
何とも言えないですが今回は全部出し切った結果です。
累計ドライバーポイント 10.5 となり、ドライバーランキング 10 位に浮上しました。
悔しい結果でしたが、なんとかドライバーが耐えてくれました。
今日の全てをフィードバックして明日に備えます。
明日の RACE2 は国本選手に託し、表彰台のトップを目指して爆走していきます。
皆様の応援、誠にありがとうございました。』

【阪口選手】



『予選は爽快でしたが決勝はペース不足でした。ただ難しいコンディション、ノーウエイトって事を考えて4位は確実に良くなっていると思います。明日の決勝の時間帯は違いますが、国本選手にフィードバックしたいと思います。応援ありがとうございました。』



RACE2

8 月 3 日 (日) 天候 : 晴 (途中小雨) コース状況 : ドライ

公式予選 : GT500 クラス 4 位 : 1:28.004 (国本選手)

昨日に引き続き、晴天となった富士スピードウェイで開催される、Round.4 FUJI の RACE2。コース上には陽炎も見え
るが、昨日よりは気温が低いとの予想で、昨日のレースデータがどれだけ活かせるか全く異なるかはわからない。

昨日に引き続き、Round.4 はいつもの 2 ドライバーで戦うフォーマットではなく、一人のドライバーで戦うことになる。
RACE1 と異なるのは、決勝が周回数ではなく、50 分のタイム制でのスプリントレースとなっていることだ。

RACE2 のドライバーは国本選手となる。

練習走行では、500 占有時間での最終週 19 周目に出した 1:27.643 をトップタイムとして、混走時間/占有時間
合計で合計 19 周、コンスタントに 1 分 28 秒台で走行し、昨日の結果を踏まえての予選そして決勝に向けての走行
となった。

予選は 10 分間のタイムアタック方式。セッション開始時の気温/路面温度が 31℃/43℃と、開始時間が 1 時間早ま
ったこともあるが、路面温度が昨日と 10℃近く低く、これが昨日とどう異なるか見どころになる。

予選開始直後には RACE1 同様、どこの車両も出てこず静かなスタートとなった。

残り 8 分で数台がコースインする中、19 号車も 7 分 50 秒にピットを後にすると、続々と入る中、3 台ほど残り 6 分で
出るという戦略の違いが垣間見られる。

国本選手も、ゆっくりとタイヤに熱を入れながら周回を重ねていき、4 周周回、残り 30 秒でアタックに入り、第 2 セクター
で全車ベストラップを出すものの、1:28.004 となり、暫定 4 位となる。その後、19 号車を上回るタイムを出す車両がな
かったため、予選結果は 4 位となりました。

予選結果は、RACE1 にてクラッシュ・リタイヤした 14 号車がポールを奪取。1 位から 5 位までスーパ勢が占める事と
なりました。

順位は以下のようになります。14-1-38-19-39-64-12-37-24-3-8-23-17-100-16

予選後コメント

【坂東監督コメント】



『ちょっと路温とマッチしなかった。申し訳ない。

昨日とは違うタイヤでチャレンジしました。

この後の決勝は 2 列目、4 番手からのスタートとなります。皆様の応援をよろしくお願いいたします。』

【国本選手コメント】



『ちょっとイメージした感じとは違いました。決勝に向けてミーティングします。』

RACE2

決勝 15 位

決勝直前の天候は曇り空。気温/路面温度は 29/37℃と下がっており、晴れているものの、雲の量が多い。夕方から小雨の予報が御殿場市内に出ている中、RACE1 と異なる条件でレース展開をどう変わるのだろうか。

RACE2 は 50 分のタイムレースとなり、平均 1 分 30 秒周回となると、約 34 週の周回レースとなるが、レース展開で SC が出た場合などで、タイムレース特有の難しさがチームの戦略を難しくしていくだろう。

RACE2 のドライバーは国本選手。午前中開催された予選では 4 位、2 列目からのスタートとなり、表彰台を目指して突き進むのみ。

16 時 50 分、セーフティカー先導で 15 台の隊列が動き出すと、ラップフォーメーションラップを 2 周し、ポールポジションの 16 号車を先頭とし、コントロールタワーを通過、スタートが切られた

オープニングラップ、1 コーナーでアウトから後ろの 39 号車に並ばれると、コーナー立ち上がりで横に並ばれ 5 位に、2 周

目には、1 コーナーの飛び込みでインから 12 号車に並ばれ接触、アウトに押し出された形となり、12,8,64 号車に刺され、8 番手までダウンしてしまう。

4 周目、6 番手の 8 号車を先頭とした 15 番手までのトレイン状態の隊列の中、8 位の 19 号車は懸命に前の 64 号車に食らいつくとともに、24 号車からの追撃を受けつつ周回を重ねていく。24 号車の追撃の中、9 周目の最終コーナーでインを小さく回った 24 号車にパスされて 9 番手に。更に、3 号車が後ろにつくと 10 周目の 1 コーナーで、ダンロップコーナーの飛び込みで 37 号車にパスされて 11 番手まで後退してしまった。

ペースが上がらない 19 号車は更に、11 周目のダンロップで 17 号車に、パナソニックコーナーで 23、100 号車にパスされるものの、メインストレートで 100 号車をパスしたものの、12 周目の 1 コーナーで 100 号車に飛び込まれ、さらに 13 周目には 16 号車にパスされて、15 番手まで沈んでしまった。

17 周目に 16 号車がドライブスルーペナルティを消化した関係で、19 号車は 14 番手に。しかし、前の 100 号車との差は 10 秒以上開いてしまう。さらに、トップの周回タイムと 5 秒以上ペースが遅い 19 号車は 21 周目に緊急でピットに入り、タイヤを 4 輪交換して、14.5 秒でコースに復帰。15 番手となってしまった。

周回遅れとなり、完全に勝負権が無くなってしまったが、国本選手は 19 号車をゴールに導き、50 分間の厳しいレースを 15 位でチェッカーを受けることとなりました。

レースはポールスタートの 14 号車と 2 位の 1 号車が抜け出すものの、徐々に迫ってきた 1 号車が最終周背後まで迫ってくるものの、14 号車が逃げ切り、ポールトゥウィンで優勝。2 位は 1 号車となりました。

以下の順位は 38-39-12-3-37-64-23-24-8-100-17-16-19 となります。



決勝コメント

【坂東監督】



『全て僕の責任です。昨日とは違うタイヤで狙い過ぎました。

ドライバーには申し訳ない気持ちでいっぱいです。本当にすいません。

阪口選手と同じタイヤだったらどうだったか・・・

タイヤはおそらく5周目くらいでタイヤトラブルを抱えてしまい、そのまま半分以上走らせてしまったので苦しい場面ばかりモニターに映ってしまいました。その後他のタイヤに交換しました。

残念な結果となりましたが、気持ちを切り替え、次戦の鈴鹿ではトップを目指して爆走していきます。

皆様の応援、誠にありがとうございました。』

【国本選手】



『鈴鹿頑張ります。

沢山の応援ありがとうございました。』

次戦は8月23-24日の鈴鹿サーキット。今年は1回しかないのを楽しみにしていました。2023年の鈴鹿のような活躍を見せます。是非サーキットに来てください。皆様の今回も応援、誠にありがとうございました。

SUPERGT

<https://supergt.net/pages>

BANDOH

<http://www.bandohracing.com/>